



- 1. はじめに
- 2. コーディング上の指定
- 3. 順ファイルの使用方法
- 4. プリンタへの出力方法
- 5. 索引ファイルの使用方法
- 6. 終わりに

1. はじめに

本説明書では、簡単なプログラム(ファイル等を使わないプログラム) の作成からコンパイル、実行までの使用方法は既に理解しているもの として、説明を進めます。

説明は、既にコンパイル&リンケージが終わり、実行ファイルが生成 されているところから始めます。フラグ消しなどの実行ファイルの生 成までは入門編他を参照ください。

通常、出力系で指定したファイルの実体が存在しない場合は、 COBOL2002が、自動的にファイルを割り当てて生成します。入力・更 新等で指定したファイルの実体がない場合は、実行時にエラーとなり ます。

なお、ここでは、ファイル等を用いたCOBOLプログラムを実行する上 での基本的な使い方を説明します。その他の詳細な使用方法について は、マニュアル「COBOL2002 操作ガイド」または、「COBOL2002 ユーザ ーズガイド」を参照ください。

2. コーディング上の指定

まず、ソースプログラム上のファイルの指定方法を説明します。 ファイルの割り当ては、プリンタに直接出力する場合などの特別な場 合を除いて、主に2つの方法があります。

①ソースプログラム中に、直接「ファイル実体名」を指定する方式
 ②外部装置名を指定して、プログラムを実行するときに実行時環境変数でファイル実体と結びつける方式

[ソースプログラム中に直接「ファイル実体名」を指定する方法]

ASSIGN句に、文字定数でファイル実体名(完全パス名)を指定します。パス名を省略すると、 実行可能ファイルがあるパスが仮定されます(実行可能ファイルと同じフォルダにファイル がある場合はパス名を省略できます)。



ファイル名を間違えるとプログラム実行時に、エラーとなります。(コンパイル時には チェックされないので、誤った名称であってもエラーにはなりません。)

<u>この指定方法では、3章以降で説明していくファイルの割り当て方法は必要ありません。</u>

[外部装置名を指定する方法]

ASSIGN句に「SYS010」などの外部装置名を指定します。



外部装置名は英数字の名称で「SYSXXX」などが一般的に使用されます。

<u>この指定方法では、3章以降で説明するファイルの割り当て方法によりファイル実体と結びつけます。</u>

3. 順ファイルの使用方法

COBOLプログラム中に、外部装置名「SYS010」を指定したものとして説 明します。また、コンパイル&リンケージが終わった状態から操作 方法を説明します。

[手順1] 開発マネージャのメニューバーの「ビルド(B)」をクリックし、プルダ ウンメニューの中から「実行支援(L)」をクリックします。

www.communicational and the sampleDevelopment of the sampleDevelopmen	1.hmf				_	
プロジェクトマスタ(<u>M</u>) ファイル(<u>F</u>) プロジェクト(<u>P</u>)	ビルド(B) ツール(D)	ዕብンՒንን₩)	Λμ7°(<u>H</u>)			
🔹 🛩 🖬 🗷 ⊾ 😒 😒 🗊 🛶 ?	ビルト*(B) クイックビルト*(Q) コンハ*イル(C) リヒシルト*(R)		Ctrl+B			
🚰 sample01.hmf	オペアのつかい <u>に</u> わい	****オス tの がた(D)	<u> </u>			
Sample01 ●・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	 「バレンクロシェントの」 ビルトの中止(S) 依存関係更新(A) デジバッガ(D) 実行(E) 	,×19⊗1#TF\ <u>C</u>	Ctrl+E	(2)	 	
「「」」「マーマーク」 COBOL2002 実行支援を起動する	実行支援(1)				NUM	_
ま行支援 for COBOL ファイル(E) 設定(E) 実行 環境変数登録リスト(L) 環境変数登録リスト(L)	2002 - reidai2.CBR 行(R) ヘルフ°(H) 実行時環境変数は、 ッグ オブジェクト -タ ファイル ラム終了と同時にプロ 時メッセージの出力先: .ABNの引数を終了コー 実行環境ファイル名を招 ERNAL指定項目の初期 クリンクするDLLの名称 .自動ロード機能を使用	「ユーザ設) ・指向 - 画面 セスを終了させ ファイル名を指 ードにする 指定する 脂値を指定する 同を指定する 同を指定する に	定」タ ブで討 イベントログ 画面はXMAP ま ま する			
	.日勤山下で機能を使用	19 0				

[用語解説] COBOL2002実行支援

COBOL2002実行支援とは、プログラムの実行に必要な環境設定をするツールで、ファイルの割り当てやプリンタに対する印刷書式の設定などを行います。

[手順2] 実行支援画面の中の「ユーザ設定」タブをクリックし、変数名の入力エ リアに「CBL_外部装置名=」と半角で入力します。その後、参照ボタン をクリックします。すると、ファイルの参照画面が出ます。

≫実行支援 for COBOL2002 -	- reidai2.CBR				
ファイル(E) 設定(E) 実行(R)	∧μフ°(<u>H</u>)				
🗅 🛩 🖬 🕌 🖇	ファイルの参照				? ×
環境変数登録リスト(<u>L</u>)	ファイルの場所①:	🔁 reidai2	•	⇔ 🗈 📸 📰 •	
	◯ work i FILE02 eidai2.cbl				
	1) 外部装置名がSYSC)10の場合、「CBL_S	SYS010=」と入力	
一般 少量テータ 拡張機能 デバッグ	 ファイル名(<u>N</u>):	*.*		開公	0
変数名(N) CBL_SYS010=	ファイルの種類(工):	全てのファイル(*.*)		 キャン 	บ ม //
值(V) 个		1			
	印刷定義(P)				

[手順3] 必要であればフォルダの表示を調整して該当するファイルを探し、 ファイルのアイコンをダブルクリックします。

		該当フォル	レダに位置付ける	0
ファイルの参照			<u>? ×</u>	
ファイルの場所型:	🔁 reidai2	🛃 🗢 🛓 e	* 🎟 •	
work		-		
reidal2.cbi	該当するファイルのアイ コンをダブルクリック			
		J		
ファイル名(N):	FILE02		開((0)	
ファイルの種類(工):	全てのファイル(*.*)	•	キャンセル	

[手順4] COBOL2002実行支援の画面に戻り、ファイルが完全パス指定で表示されます。ここで、登録ボタンをクリックください。

実行支援 for COBOL2002 - reidai2.CBR ファイル(E) 設定(E) 実行(R) ヘルフ℃(H)		,
環境変数登録リスト(L)		<pre>X</pre>
		3
	全 パ	
	スタクション	
一一般 少量データ ファイル 画面 画面(XMAP)) 整列併合 示	
拡張機能 デバッグ オブジェクト指向 イベントログ	ユーザ設定した	
変数名(N)		
CBL_SYSUTU=		
值 <u></u>		
C:¥temp¥sample01¥reidai2¥FILE02		
印刷定義(P) 参照(B)	登録ボタ	ンを
	クリック と環境変	する 数登
	録リスト	上に
■実行支援 for COBOL2002 - reidai2.CBR (更新)		ます
ファイル(E) 設定(E) 実行(R) ヘルプ(H)		
🗅 😅 🖬 🕌 🖇		
環境変数登録リスト(L)		
CBL_SYS010=C:¥temp¥sample01¥reidai2¥FILE02		
環境変数を削除すると	きは、削除ボタンをクリックしる	ます。

[ワンポイントアドバイス]

- ①ファイル実体名が拡張子付きの場合は、拡張子も含めて指定してください。
 〈例〉CBL_SYS0101=C:¥temp¥samp1e¥reidai2¥F1LE02. dat
- ②本例題ではファイル実体名は完全パス名で指定しましたが、実行可能ファイル(.exe)と同じフォルダの中にファイルの実体があるときは、最後のファイル名だけですみます。 〈例〉CBL_SYS0101=FILE02
- ③新規に作成するファイル(OPEN OUTPUTのファイル)の場合、ファイル実体が存在しなく てもかまいません。この場合、参照ボタンで該当フォルダに位置付けて、ファイル名の 欄にファイル名を入力し、「開く(0)」ボタンをクリックします。実行可能ファイル(.exe) と同じフォルダに作成する場合は、ファイル名だけを入力します。

[手順5] COBOL2002実行支援を終了します。「保存しますか?」と聞いてくるの で、「はい(Y)」ボタンをクリックします。

	ダブルクリック [<u> </u>
「ファイル」「終了」の	実行支援 for COBOL2002 - reidai2.CBR (更新) ファイル(E) 設定(E) 実行(R) ヘルフ*(H) 新規作成(N) 開(@) 上書き保存(S) 名前を付けて(保存(A) 終了(※) 三つの終了方法があります どの方法で終了してもかます	
い順にクリックする	→般 少量データ ファイル 画面 画面(XMAF) 拡張機能 デバッグ オブジェクト指向 イベントログ 変数名(N)	 シ 整列併合 ユーザ設定
	印刷定義(2) 参照(8)	
	実行支援 for COBOL2002	×
	reidai2.CBRは更新されています。保存しますか (パパダ) パリンセル (パパズクロー・レー・シーンセル)	?

[手順6] 開発マネージャに戻って、「実行」ボタンを押します。



4. プリンタへの出力方法

COBOLプログラムから印刷データをプリンタに出力する方法を説明します。

[印刷データを直接プリンタに出力する方法]

2章で説明したように、ソースプログラム中で指定することができます。 次に示すように、外部装置名の所に文字定数で「PRINTER」と指定します。



[印刷データを一旦フアイル上に出力する方法]

プリンタに直接出力するのでなく、一旦ディスク上に出力する方式も考えられます。この場合は、順ファイルに出力するのと同じやり方でできます。 順ファイルの出力内容が正しいことを確認したら、COBOLエディタ等を使って ディスク上のファイルを開いて印刷してください。

5. 索引ファイルの使用方法

索引ファイルの割り当ては、順ファイルと同様に次のどちらかで行い ます。

- ・ソースプログラム中のASSIGN句の外部装置名に文字定数でファイル 実体名を指定する。
- 外部装置名に「SYSXXX」を指定しておき、COBOL2002実行支援を起動して、「CBL_SYSXXX=ファイル実体名」を指定する。

順ファイルと異なるのは、次の点です。

- ・順ファイルは単独のファイルですが、索引ファイルは3種類のファ イルで構成されます。副キーは、最大98個まで指定可能です。
 ①キー定義ファイル(.kdf):キーとデータの対応を示す。
 ②キーファイル(主キー:.k01,副キー:.k02~.k99)
 ③データファイル(.drf)
- ・順ファイルでは拡張子を含めてファイル実体名を指定しましたが、
 索引ファイルの場合拡張子は指定しません。











[ワンポイントアドバイス]

順ファイルは任意の拡張子を付けることができます。また、拡張子がなくてもかまいません。拡張子を付ける場合は、ファイルの割り当て時に拡張子を含めて指定します。 索引ファイルは、拡張子が決められています。ファイルの割り当てをする際は、上記の例のように拡張子を除いて指定します。

6. 終わりに

ファイルを使用したプログラムの実行においては、ソースに直接フ ァイルの実体名を記述する方法と、実行支援でファイル実体と結び つける方法があることを説明しました。また、プリンタに直接出力 する方法も説明しました。

しかし、プログラムを実行するにあたっては、更に詳細な設定が必要な場合もあります。

詳細な設定方法については、マニュアル「COBOL2002 操作ガイド」または「COBOL2002 ユーザーズガイド」をご参照ください。

(b)テスト データの作成方法 - テストデータを容易に作成するために -

- 1. はじめに
- 2. COBOLエディタの起動方法
- 3. データの入力方法
- 4. COBOLエディタの終了
- 5. 改行コードの表示方法

1. はじめに

本説明書では、テキストファイルのデータの作成方法を説明します。 テキストファイルと順ファイルはほとんど同じ形式をしていますが、 改行コード付きのデータをテキストファイルと呼んでいます。改行コ ードまでを1レコードとして扱います。テキストファイルのデータは COBOLエディタやメモ帳で作成できます。

順ファイルとテキストファイルは、ソースプログラム上の定義が次の ように異なります。順ファイルの場合、「ORGANIZATION」句は省略でき ます。

順ファイル指定方法

SELECT	ファイル名	ASSIGN	Т0	SYS001	
	ORGANIZATIO	N IS S	SEQUE	NTIAL.	

テキストファイル指定方法

SELECT	ファイル名	ASSIGN	Τ0	SYS001
	ORGANIZATIO	N IS	LINE	SEQUENTIAL.

2. COBOLエディタの起動方法

[手順1]スタートボタンを押し(①)、「プログラム」の所にマウスポインタを移動します(②)。すると起動できるプログラムの一覧が出てきます。



[手順2] プログラムの一覧の中からCOBOL2002の所にマウスポインタを 移動します(①)。メニューから「COBOLエディタ」を選択します (②)。



[手順3] 起動されたCOBOLエディタ画面より「ファイル(F)」-「新規作成(N)」 の順に選択します(①-②)。すると「新規作成画面」が表示され ます(③)。

BOLIディタ for C								-	1-
	:OBOL200) 検索(s)	2 雄立(M)		の二し(工)	<u>ሰ ለ</u> እንት ለእስ	AIL7%(H)			_ □
アイル(ビ) 補来(ビ) 英雄(たけ(N)	199茶12/ 1	1#X\1/	47747 <u>0</u> 7 deN	9-WD	942F93 <u>W</u> /				
新祝 FAX 14/ 開((<u>O</u>)		Cti	rl+0		1	‡0 ₹0 •	78 %		
閉じる(<u>O</u>)		Cti	rl+F4		- B B				
上書き保存(S)	• `	Otr	rl+S						
名前を付けて1米仔U すべて保存(L)	<u>+</u>)								
	₹(U)		_						
印刷プレビュー(⊻)									
印刷(2)		Cti	rl+P						
プロノペティ(<u>R</u>)									
COBOLIディタの終了	∞	Alt	+F4						
					-				
ት					_ î <u>†</u> :	カラム:		ļ	
3 DBOLIF	30L2002							ſ	_ [
3 DBOLIディfor COE	30L2002 索(<u>S</u>) 梯	募文(⊻) 力	†7°%∎V@)	-h(D)	う <i>い</i> トウ <u>(W)</u>	^⊮7°(<u>H</u>)			_ [
3 DBOLIディ for COB (E) 編(E) 検 译 1、 / 多 1、	30L2002 索(<u>S</u>) 样	対的な	t7%₄ン©) ឞ [≣১ [)-#D	j~/>)™∰	^#2°(H) □ ±3 ∓3 3		[_ [
3 DBOLIディfor COE (E) 續 (E) 検 译 E 译 》] (30L2002 索(<u>S</u>) 棹 X, 唱画 画	較い 3 1 し の	t7°∿∎ン@) ზ∐≣ან	Ÿ−₩(Ĭ)	ウルドウ <u>W</u> の しー・・・	^ルフ°(<u>H)</u> ▼ ±Ა テᲐ Ა _			_ [
3 BOLIデ for COB (E) 編 (E) 検 译 [] 》]。	30L2002 索(<u>S</u>) 様 浅 唱画 信	校 M (1)	לז%₁ン@) נו ∐≣נר נו	у-µ(Д)	ウ心ドウ(W) ロー・	^⊮7°(H) ▼ \$9 \$9 9	8 28		<u> </u>
3 BOLIデ for COE (E) 候 (E) 候 (E) 検 新規作成 771ルの種類:	30L2002 索(<u>S</u>) 梯 光 陷 盾	较₩ 3 3 0 9	わかっン(Q) ひ」「私「 拡張	ッール(①) マール(①)	ሳለን⊩ን ∰ □ □ □	-⊬:	6 26	×	_ [
3 BBOLIディ for COE (E) 編 (E) 検 ご (E) 検 (E) (E) (E) (E) (E) (E) (E) (E) (E) (E)	30L2002 索(<u>S</u>) 梯 发 唱 〔 又(固定形	k (Y) 対 る し し い 気 王 志 王 た ま 工 た (ま 王 王 た の) () の 、 の 、 () () の 、 つ い () つ い う い う の 。 の う い う う の 、 の 、 の 、 の 、 の 、 の 、 の 、 の 、 の 、	t7°У₃У@) し」 こし 城珠 /@) сы	ッール(①) (子: プ	ሳለን⊦ነት ∰ ፲. በ ታን∋ፈ ፣ ንንን°ሁ [~⊮⊃°(<u>H)</u> 			_ [
3 DBOLIデ for COE (E) 候 全 E 分 () 新規作成 予 77イルの種類 ・ COBOLソー ・ COBOLソー	30L2002 索(S) 样 光 唱 え(固定形 ス(自由形	秋 ① (対 2) (乙) (2) (2) (2) (2) (2) (2) (2) (2)	打≫₄ン@) ひ」話し「 拡張 び©) [cbi D(E) [cbf	ッール(T) マール(T) マー マー 「 マー 「	ウィントゥ (<u>w</u>) La ロ ケッラム テンフ [®]レ 1	~⊮7°(<u>H)</u> -ŀ:			_ [
3 BOLIデ for COE E 後 E 後 新規作成 で COBOLソー C 7キスト、その	30L2002 索(S) 様 光 唱画 え (自由形 2、(自由形 2、(他の)7ァイ)	対 ③ 【 び の の の の の の し の の の し の の の し の の の し の の の し の の の の し の の の の の し の の の の の し の の の の の の の の の の の の の	17 %ョン(Q) ひ) 書 し 「 拡張 (C) 「cbf (E) 「cbf	ッール(T) (子: フ [*]) マーレ	ウィントゥ (<u>w</u>) ロケッチ テンフッレー 1	^ルフ°(H) ▼ ±۵ ∓۵ ۵		×	_ [
3 BOLIデ for COE (E) 編 (E) 検 (E) (K) (E) (K) (E	30L2002 索(S) 様 光 唱 こ て 固定形 ス(自由形 ン他のファイ)	文① 7 3 3 3 5 5 5 5 5 5 5 5 5 5 5 5 5	打≫₄ン(©) と 」 私研 ○(E) 「Cbl	ッール① 子: プ マ 「	ウィントゥ (<u>M</u>) ログラム テンフ [®] レー 1	へルフ°(円) 〒は★容母(n)1			<u> </u>
3 DBOLIデ for COE (E) 編 (E) 候 学 日 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一	30L2002 索(S) 様 別 唱 え(固定形 ス(自由形)他のファイ	k ① 対 は 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、	17 %₃ン(Q) は し し し し し し し し し し し し し	ッール(①) マール(①) マーロー キャンセ	ウィントゥ (<u>w</u>) レー・・・ ロケッラム テンフッレ・ 1	へルフ°(円) ■ はう すう う -ト: 定値を登録(D)			- 10
3 BOLIデ for COE E 後 E 後 新規作成 7ァイルの種類 COBOLソー COBOLソー C テキスト、その	30L2002 索(S) 様 光 唱画 え(自由形 2(自由形 2)他のファイ	対 文 公 () 文 正 書 法) ル () () () () () () () () () ()	17 %₃ン(Q) ひ	リール(T) マー・「 マー・「 キャンセ	ウィントゥ (W) ロケッチ テンフッレ・ 1 ル 設	ヘルフ°(円) ▼ はい すい し	₽ ₩ ^\⊮7°Œ		_ [
3 BOLIデ for COE (E) 編 (E) 検 章 新規作成 で COBOLソー で COBOLソー で COBOLソー で COBOLソー	30L2002 索(<u>S</u>) 様 光 唱 「 ス(固定形 ス(自由形)他のファイ	秋 (☆) (☆)	17 *ション(©) と 「 拡張 が で) (E) 「 cbf K	リール(T) マール(T) マーロ キャンセ	ウィントウ (W/) ログラム テンフ [®] レー 1	ヘルフ°(円) ▼ よう すう う -ト: 定値を登録(D)	► ₩		_ [

[手順4] ファイルの種類を「テキスト、その他のファイル(T)」にして(①) 「OK」ボタンを押す(②)と、新規にテキストファイルが表示され ます(③)。

<mark>≧</mark> COBOLIデ約 for COBOL2002 ファイル(E) 編集(E) 検索(S) 構文(Y) オブション(Q) ツール(T)	-ロメ ウィントゥウ (M) - ヘルフ ^o (H)
D 🛎 🗉 🥌 X 🖻 🖻 Ø 95 N	I 10 10 18 38
」 ■ 新規作成	X
23 曜 ファイルの種類: 拡張子: フ	ንግታንታለ ታንጋግሥት፦
○ COBOLY-ス個定形式正書法)(©) cbl ▼	
C COBOLY-Z(自田形式止書法)(E) [cbf ▼]]	
() ケキスト、その)他のファイル(1)	
<u>ОК</u> ++У	セル設定値を登録(D)(H)
kī [*] i (2)	行: 力方ム: //
	3
COBOLIデ約 for COBOL2002 - [テキスト1]	_ <u>_</u> _ X
□ 774ル(E) 編集(E) 検索(S) 構文(Y) オフジョン(Q) ツール □ C ~? □ (A) V (B) C (J C C) (E)	
	4
<u> </u>	4
ντ [*] ί	

3. データの入力方法

- [手順1] エディタ画面上のカラム目盛りの任意の位置をクリックすると 補助線が引かれます(①)。
 - ※ 補助線を消去するには、補助線のカラム目盛りの位置をダブル クリックします。
 - ※ 補助線は保存されません。

COBOLIディタ for COBOL2 アナイル(E) 編集(E) 検	002 - [テキスト1] 索⑤) 構文(Y) オフション(Q) ୬–ル(፲) ሳለ/ኑንላ	M ^µ7°(<u>H</u>)	
	a R U V N	8	፼ ⊑ ≖ ⊡ 1 9 19 38 %	5
	••••2•••••	+++++4+++++++++++++++++++++++++++++++++	+5++++++++6++++	++++++7+++++
)			
				•
ม ี		行: 1	カラム: 1 挿2	

[手順2] データをキーインします。各データの最後は改行します。

🛓 COBOLIデわ for COBOL2002 -	[テキスト1 *]						<u> </u>
□ ファイル(E) 編集(E) 検索(S)	構文化オプション@	ツール(①	<u> </u>	∧ルフ°(<u>H</u>)			<u>_ 8 ×</u>
🗅 🚅 🔚 🎒 👗 🖻 🗊	l 🗗 🕑 😼 🛛 🛼			- 79 ±9 9	6 🔏		
			👯 🏚				
G &							
	+++++	+++++4++	•••• • 5	• • • • • • • • •	6++++	+++++7+	
02021301へ。ンタント	03600100						
0203130217977 020413037°¤~ 1	05500145 9		fの最後に	は改行コー	۰F		
02051304ネックレス	06890100						
020613052E17 02071306E977	10500050¶ 01920160¶						
02081307\$7E°>	05000080						
02091308*#F	p1000p99) #						
							-
							►
ν 7 °r		行	r: 8	カラム: 29	挿入	変更	11.

[手順3] 名前を付けてデータをセーブします。

- 「ファイル(F)」をクリックして、プルダウンメニューから「名前を付けて保存(A)」をクリックします(①)。
- すると、「名前を付けて保存画面」が表示されます(②)。
- ・必要ならフォルダの表示を調整して、格納したいフォルダに位置づけます(③)。
- ・フォルダに位置付いたらデータファイル名を指定します(④)。
- ・「保存(A)」ボタンをクリックします(⑤)。

₿⁄ C	OBOLIディタ for COE	30L2002 -	[テキスト1]							
1	ファイル(E) 編集(E)	検索(<u>S</u>)	構文♡	オプション(0)	ッール①	ሳለንՒንታ₩)	^ルフ°(<u>H</u>)			_ 8 ×
	 新規作成(N) 開(Q) 開じる(Q) 上書き保存(Q) 名前を付けて保存 マベて保存(L) ヘ[®]ージ[*] レイアウトの設 印刷り[®]レビュー(V) 印刷(P) 	(<u>A</u>) 定(<u>U</u>)	Ct Ot Ot Ot	rl+N rl+O rl+F4 rl+S	1	j j ∰ ₱ 5	-] ±0 ∓0 □ == 	\E 🚜	+++++7	+++++
	フロハティ(ビ)… COBOLIディタの終	7⊗	Alt	t+F4						
 ↓ ↓	1				行:	1	<u>ງታム: 1</u>	挿入		• •



4. COBOLエディタの終了

「ファイル(F)」をクリックして、プルダウンメニューから「COBOLエディタの終了(X)」をクリックします(①)。



5. 改行コードの表示方法

- ・エディタのメニューバーの「オプション(0)」をクリックします(①)。
- ・プルダウンメニューから「カスタマイズ(C)」をクリックします(②)。
- 「カスタマイズ画面」出たら、「表示」タブ中の「改行」をクリックします(③)。
 「OK」ボタンをクリックします(④)。

